



ココロ
心が満たされた
ミツル
心滿意足

DOUJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



ココロ ミツル 心満足
心が満たされた

突き刺さるような痛みが
止めどなく私の心を襲う
涙はまるでこのどうしようもない感情に呼応するように
いつまでも、いつまでもこぼれ落ちてくる



悲しむのをやめようにも



否定された時の光景を思い出すと
より一層と涙はさめざめと
溢れ出てしまう

ぽろぽろ



くう…



気持ち悪い



自分達が特別だ
なんて思わないで

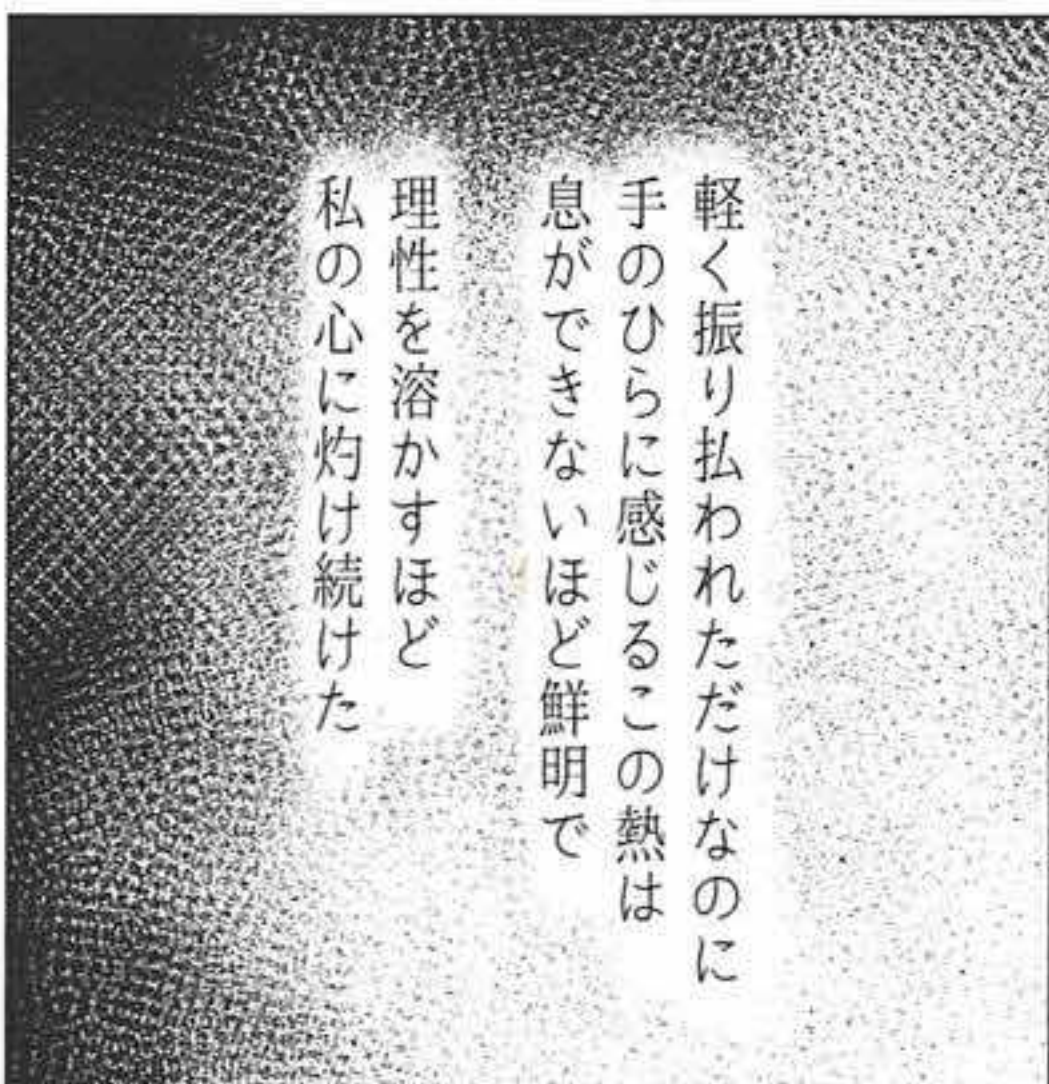


頭の中で反響する言葉の
一つ一つが絶えなく
私の心を擦り減らす

けど
最も私を苦しめているのは
左手から感じる
ちくりとした痛みだった



軽く振り払われただけなのに
手のひらに感じるこの熱は
息ができないほど鮮明で
理性を溶かすほど
私の心に灼け続けた





貴女って人は…



キュウッ

ただどあの時から
彼への思いが抑えきれなくて
頭の中はミツルくん
のことばいだった

私が押し付けた感情は
きつとミツルくん
に迷惑をかけたのでしよう



……



なんの話です…



ニヤリ

不思議ですね



しっしっ

これからココロさん
を守るって…



聞き慣れている心温まる声が響いた
けど彼に氣遣われる資格は
自覚しているから
私は思わずと身をさらに竦めた

何もかも
私が間違っていたの

ごめんね

無理に付き合わせようとして…
ごめんなさい…



彼に謝りたいのに
自分の気持ちも伝いたい
私はいったいどうしたらいいの

ミツルくん…

ガチャリ

ココロさん…



優しくしないでいいから…
もう…放っておいて

もう互いが傷つかないように
私は彼から離れるしかなかった



こうやって
私はもう一度ミツルくんを傷つけた

ウソ!



謝らないで下さい…
僕は…無理に付き合ってる
つもりなんて…

そんなに優しく
しないで
私は自分勝手な人だ



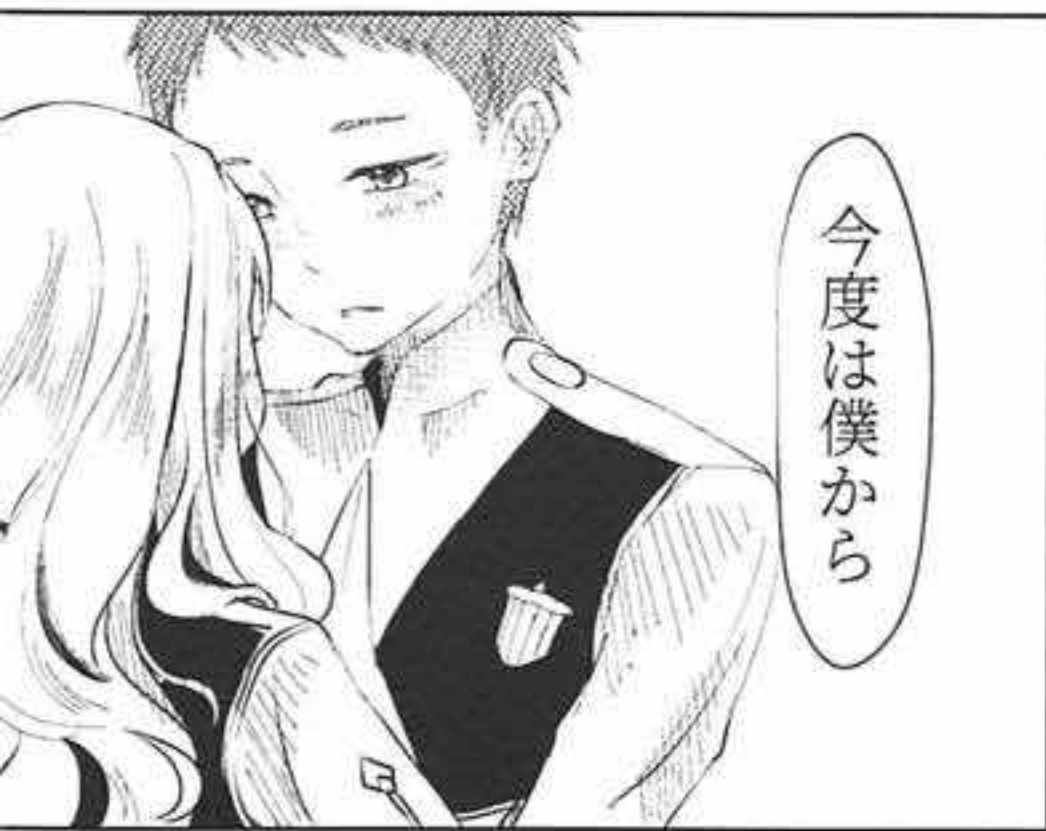
今奈落に飛び込もうと
決めたばかりなのに
すぐミツルくん
引き戻された
彼の話した言葉は力強く
私の決心を
打ち砕いてくれた
この瞬間の救われた
ような気持ちは
私の思考すら止まらせた

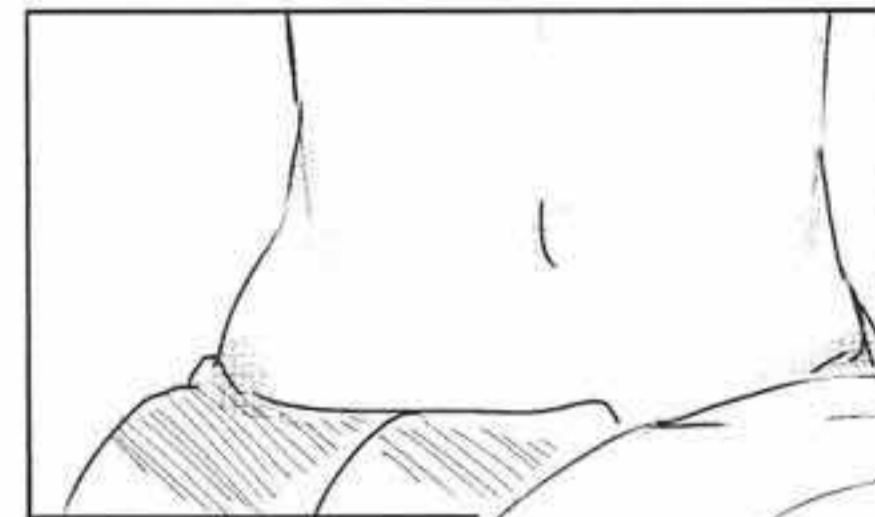
嫌です!





ミツルくんの
抱擁とキスは
私の心の曇りを
取り払ってくれた
片思いではなかった
とわかった途端
残る全ての不安は
涙と共に洗い流され
自分の中から
スーと消えて行く





その手付きに秘められた些かな欲情に
私は恥ずかしさを感じながらも
思わず期待してしまった

ぞくッ

ジーツ



ミツルくんは宣言した通り
自分から手を伸ばした



ミツルくんには…

私たちの『違い』を
感じさせてあげたいな

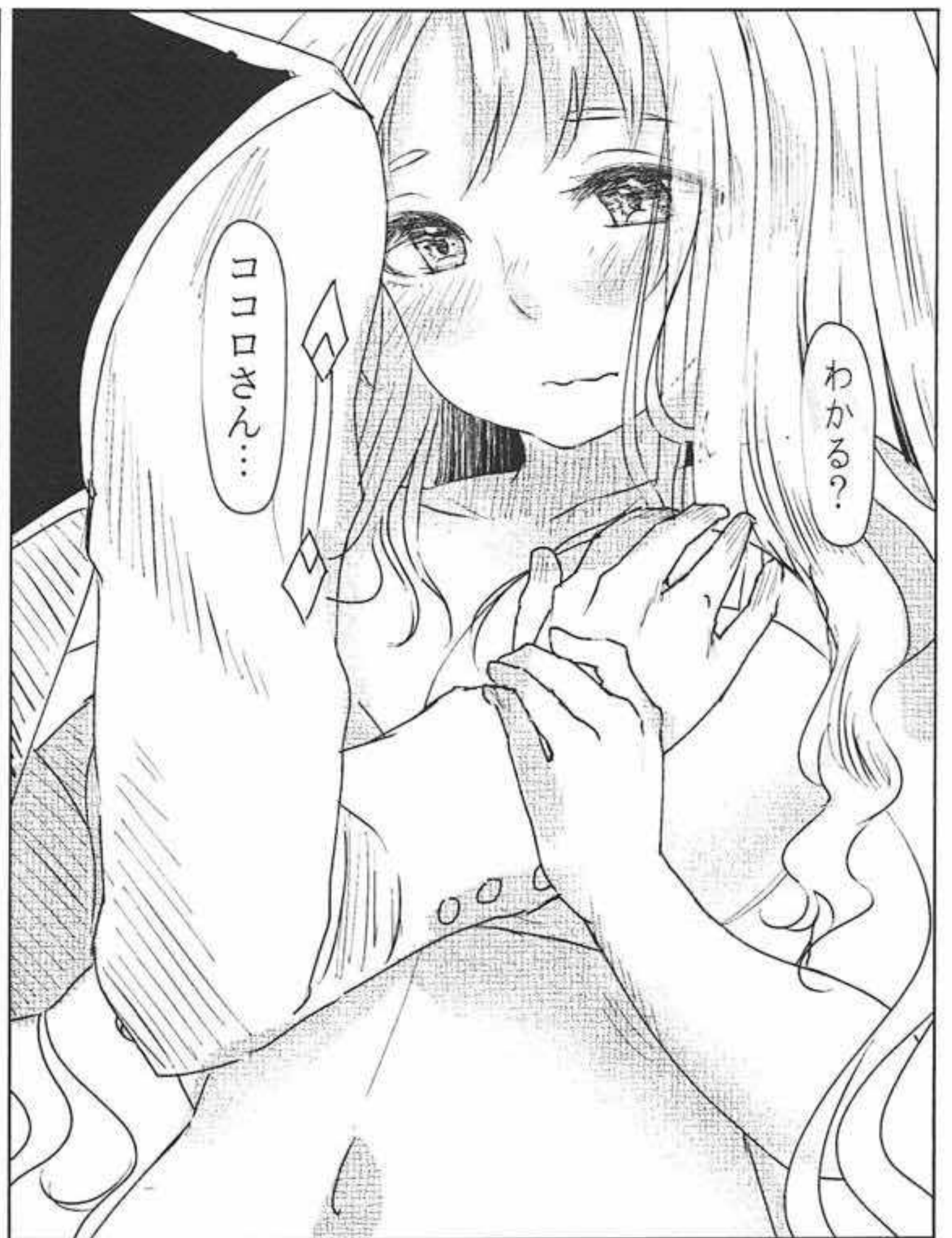
むにッ



パサツ

服が取り除かれる
とともに
私の気持ちも
丸裸にされた
今はただミツルくん
に伝えたい…











僕に委ねる？



よく見せて欲しいな

私の全てをミツルくんに委ねたい



ぐい…

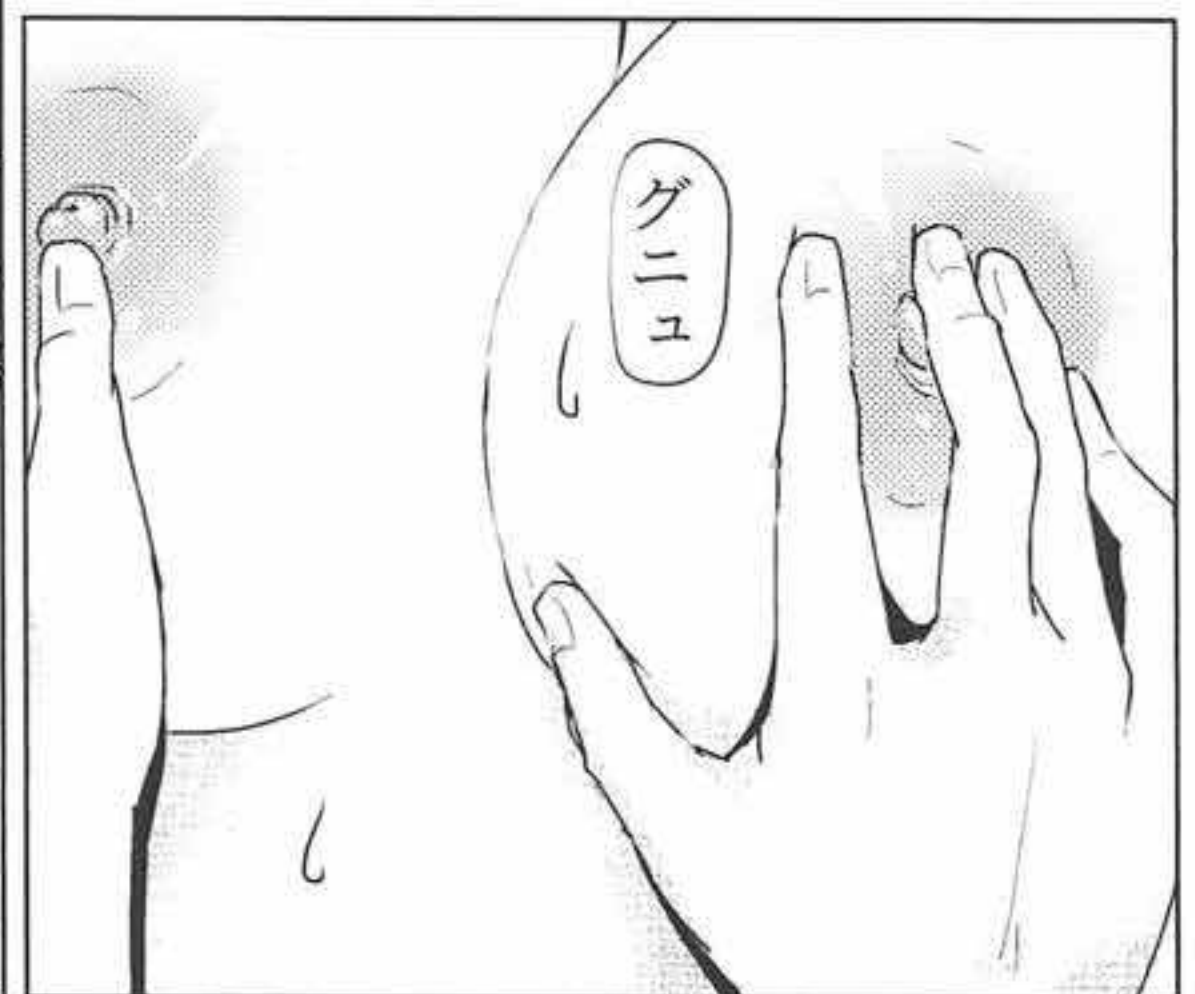
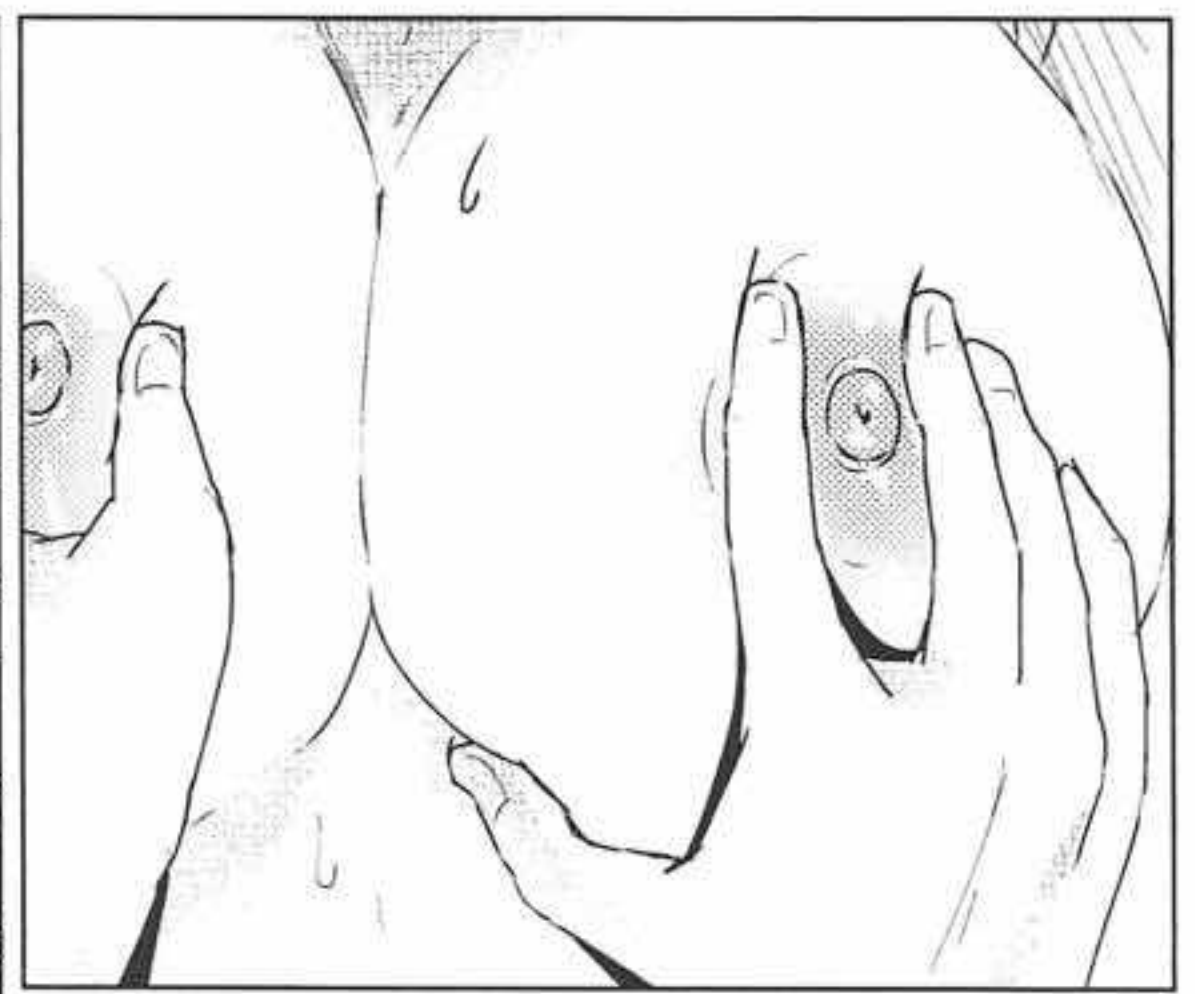


ちゅっ



うん…







嫌だったら
教えてください

じっくりとおっぱいを弄ぶ彼の様子は
ちよっとだけいやらしくて
でも：嫌いにはなれなかった

グリップ

ん…
そんなことないよ
ミツルくんが
してくれるなら
何でも好き





ミツルくんの舌は器用にペロペロと私の体を弄り
私もじんじんと疼くようになった
体の奥から催すこの欲情は…

ミツルくん…
一つお願いがあるの

すみません
気分を悪くしましたか？

は…

ううん…
違うの

は…

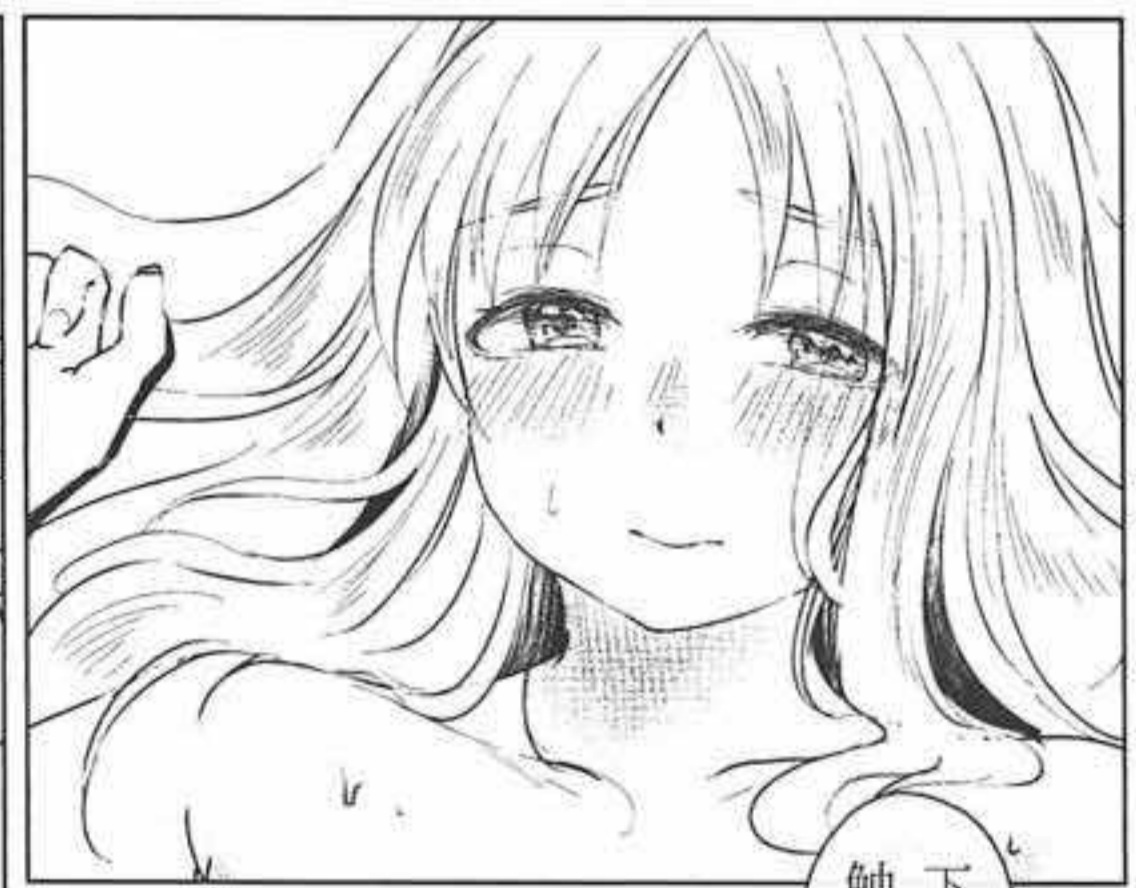
は…



ここですか？

んん…そう…

ぐっぐっ…



下のほうにも
触ってほしいなって

不思議…
少し前までの不安が今では
すっかり消えてなくなり
鼓動だけが残っている…

ミツルくんの手が下着越しに陰核に触れた時
まるで下半身から電流が身体中を走ったように
思わず体をびくんとさせた

ぎゅっ

んっ

ふあ…気持ちいい…

私の感度の良さに勘づいて
ミツルくんはすぐに
力加減を変えた

すっ

ぬちっ

ミツルくん…

もっとしてほしい

はっ

フェザータッチにも
似た愛撫は
かえって繊細な
快楽を生み出した

や…やってみます

私の願いを聞き入れて
下着を降ろしてはじめて
パンツがあそこでぐしょ濡れに
なっていることに気づいた

ぬちっ

愛液が糸を引いているのを見て
ミツルくん裸を見られた時よりも
遥かに恥ずかしかった

んっ



…ココロさん!?

ごめんなさい…

私もう我慢できなくて…
ここを直接触ってくれる?

わかりました…

何かおかしかったら
言ってください



私だけ裸になってるの
避けたかったのか
ミツルくんも追って服を全部脱いだ



本の中の絵とは
ちよっと違った
形をした陰茎は
そのまま私の目に
前に差し出された



歯止めが効かなくなった
好奇心に駆られて私は…



手で陰茎をさすると
肌から伝わる些細な気配からでも
彼も気持ちよくなっていることがわかる

直で触れられて生じた快感は
さつきよりもずっと強烈で
ミツルくんは器用な指で
私すら知らないこの体の秘密を次々と掘り出した



虫の音がざわめく夏の夜なのに
私たちには互いの吐息以外何も耳に入らなかった
抱き合って互いの体を探り
相手を気持ちよくさせる方法を模索し続けた



手つきが...



待って...





ミツルくんの赤ちゃんが出来ると思うと
まるで理性が全て吹き飛んでしまったように
心の中の望みを包み隠さず話せた

くちゅ

ミツルくんとと…
体を重ねたいの…

私のここに入れてください…



彼から出たぬめりのある体液を
私は思わず指でいじってみた



ココロさん…
何を…

しているのですか？

これが…
ミツルくんの精液なの？



とろり

これを私の中に入れてたら…



ミツルくんももはや
我慢できなくなったらしく
言葉も発さずに
そのまま体を寄せて来た

これから起こることを考えると
心臓が勝手にパクパクと鼓動を早まる
みっちりとかっついた肌と肌から
ミツルくんの体温が高まっていくのと
興奮で震えている彼の体を感じた

ココロさんの体は
熱いですね…

ミツルくんもだよ…

すみません…
ちょっと緊張して
しまっているようで…

は

うん…

ミツルくんの陰茎が
当たっているのを感じると
頭の中はもうこれ以外
何も考えなくなる…

く…
く…

ミツルくん
一つになりたい

ぎゅっ
ぎゅっ

あ…
あ…

ミツルくん…
もっと…ゆっくり…

あ

は…は…
ココロさん…

はあ…

はあ…

ぎゅッ

ぎゅッ
ぎゅッ

は

はあ





しゅ

ミツルくん…

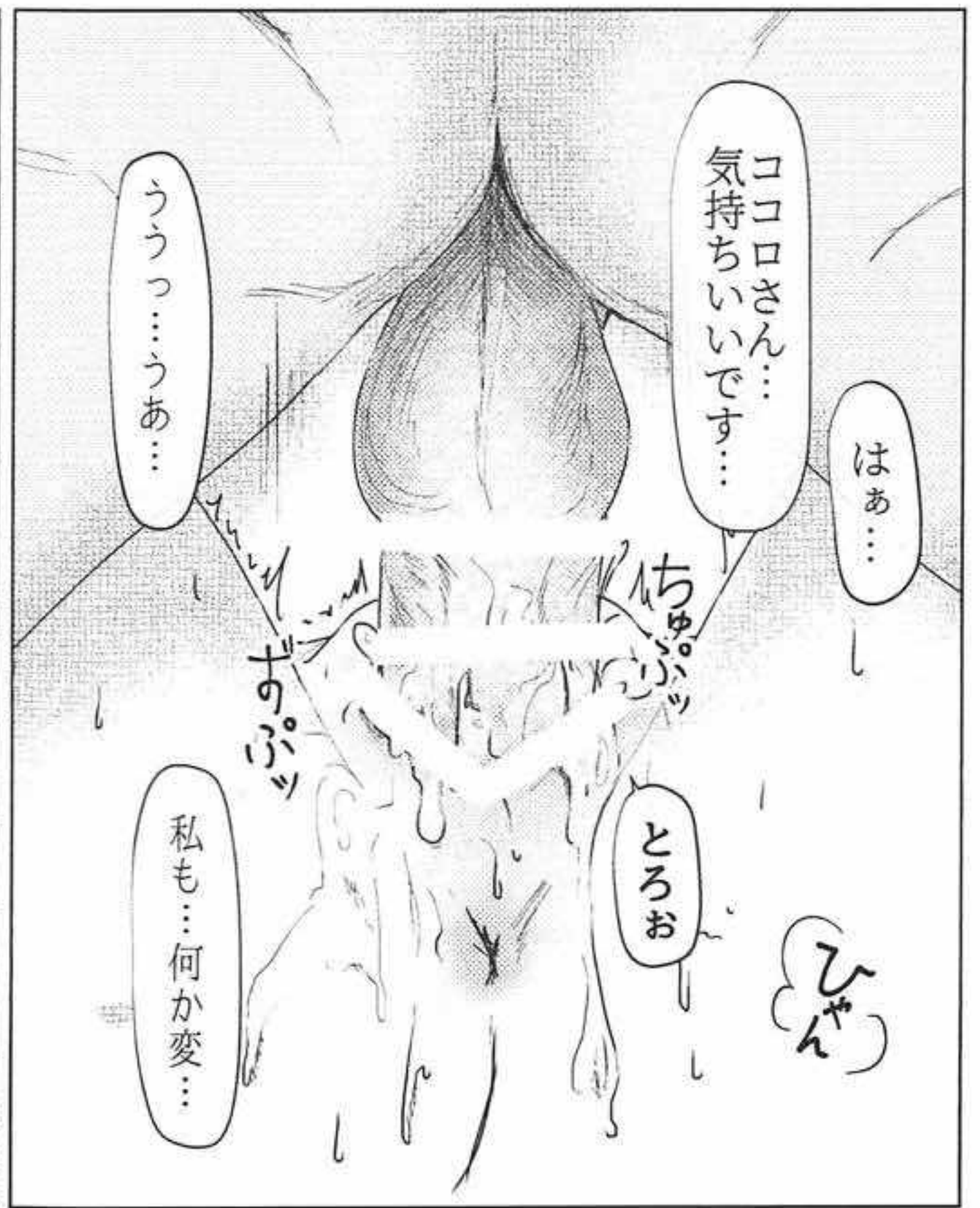
離れないで…

あ

ギュウッ

どういも行きませんや…

ん



ココロさん…
気持ちいいです…

はあ…

ううっ…うあ…

とろお

私も…何か変…

ひび



ひび

あ

ん

もう二度と
離したりなんかしません！

うん

私をぎゅーっとつかまえて

あなたを絶対に
幸せにしてみせます

うんっ
信じるよ

ん

ひび

あ



ココロさん…
好きです

好き…
それは聞いたことあるのに
ずっと理解できなかった響き



…私もミツルくんのこと好きだよ

けど それ以上に
このなんとも言えない感情を
伝える言葉を見つからなかった



ミツルくん…
ありがとう…

別に…言ってみただけ

どうしたのですか？

…
僕も言いたいことがあります



ミツルくんに出会えて
本当によかった

僕のセリフです

その時の私たちは
この選択がどのような結末を迎えるのかを
知る由もなかった
それでも
寄り添うミツルくんから伝わるこの暖かさは
ほんとに何もかも忘れさせてくれた
困惑が希望に変えられたと共に
私はプランテーション破壊以降なかったほどに
穏やかで安らいだ眠りにつくことができた

あとがき

はじめまして、そしてありがとうございます、キャロットです。
初の海外販売として、なんだかワクワクしますね。

これは自分的に、初夜の勝手な想像物です、いかがでしょうか？
次の新刊もミツココ物です、よろしくお願いします。

奥付

誌名

「心が満たされた」

発行日

2018/10

通訳者

うしぐるま@kurumax

著者

蘿蔔(キャロット)

発行サークル

蘿蔔農學院

印刷

柏豊彩色印刷

twitter : RoBosquat

pixiv : id=316889

email : zenkileung0210@gmail.com

18歳未満の購入を禁じます

無断転載を禁じます

ココロ ミツル 心滿意足
心が満たされた

